こうちミュージアム ネットワーク通信

2017 VOL. 15

目次 CONTENTS

●土佐の文化財「ニホンカワウソ」…………………… P1
●随想「龍馬顕彰の『泰斗』をめざして」…………… P2
● NEWS「川と紡いできた暮らしを伝える資料館」…… P2
●会員紹介「高知県文化生活スポーツ部文化振興課」
「高知県公立大学法人永国寺図書館」「中土佐町立美術館」
「高知県立文学館」…………………………………… P3
●特集：高知の移民文化発信プロジェクト
「大原治雄写真展」「Tréfonds サウロ･ハルオ･オオハラ写真展」
「移民と移住の歴史」「『在伯同胞活動実況大写真帖』―竹下増次郎、ブラジル日本移民を写す」………………… P4
●コラム：志国高知 幕末維新博
「「志国高知 幕末維新博」とミュージアム」「私だけではない？」…… P5
●活動報告「四国ミュージアム研究会」……………… P6
●時の話題「アンパンマンミュージアム20周年事業」…… P6
●展覧会レポート「犬､猫､作家｡～作家とペットの素敵な関係～」…… P7
●図書の窓
『ひとが優しい博物館 ユニバーサル･ミュージアムの新展開』…… P7
●会員一覧……………………………………………… P8

土佐の文化財

▲日本固有種の可能性を示した昭和 52（1977）年大月町産の剥製

◆土佐の文化財「ニホンカワウソ」

日本の水辺生態系の頂点に君臨していたニホンカワウソは、昭和54（1979）年の新荘川の個体を最後に国内での公式な確認例はなくなり、平成24（2012）年、環境省により絶滅種に指定されました。最期の地でありながら、高知県では本種に関する資料や標本類の収集保管が充分ではないのが現状です。

平成24年、協力団体と共に県内の剥製調査を行い、県西部の9施設で10点の剥製を確認しました（のいち動物公園の4点と合わせると計14点）。また最近では、1960年代から高知県西部地域において本種の生息調査を続けられた高屋勉氏（1929～2014）の遺した資料群の保管、整理、分析を関係者らと進めています。

今年、動物公園で保管されている昭和52（1977）年大月町産の剥製について、東京農業大学による遺伝子解析が実現し、大陸のユーラシアカワウソとは約130万年も前に枝分かれした「日本固有種」であるとの結果が出ました。早速、標本保存の重要性が示されたわけです。

ニホンカワウソのことは、私たちの記憶から急速に失われつつあります。後世にしっかり繋いでいくために今、埋もれた情報や資料類を収集し保管することが大事です。

（高知県立のいち動物公園　多々良成紀）

随想

龍馬顕彰の「泰斗」をめざして

高知県立坂本龍馬記念館
館長　髙松清之

坂本龍馬記念館は昨年11月で開館から四半世紀を経過した。この間、延べ390万人を超える方々に入館いただき、龍馬の業績を顕彰する施設として全国のファンの皆様に親しんできていただいたことに改めて感謝を申し上げたい。

さて、記念館のある浦戸の城山では、来春のグランドオープンに向けて、新館の建設と現在の館の改修工事が進みつつある。

「龍馬と〝心通わす〟」をテーマとする新館では、常設展示のスペースが現在の約2倍となり、来館者の方々からの強い要望でもあり、永年の課題となってきた龍馬の生涯を時系列に沿って学ぶことのできる展示が、いよいよ実現することとなる。また、本格的な博物館仕様となることから、重要文化財も含めた龍馬の書簡をはじめとする貴重な史料を展示できる環境が整い、当館の所蔵資料だけでなく、全国各地の博物館や資料館などから「本物」をお借りして、これまで以上に充実した展示を皆様に提供できる機会が飛躍的に増えてくるものと考えている。

平成30（2018）年春グランドオープン予定

一方、現在の館は、「龍馬と〝遊ぶ〟」をテーマに、幕末から維新にかけて近代日本の建設に向けて活躍した数多くの人物を写真で紹介する「幕末写真館」や様々な体験型の展示を通じて、龍馬と彼が生きた時代、そして故郷「土佐」を実感し、楽しんでいただける空間となるよう、改修が進められる。

施設の一新を契機に、記念館における活動もさらに中身の濃いものとしていかなければならない。仏作って魂を入れずとならないよう、新旧両館での展示や様々なイベントの企画にも、さらに趣向を凝らし、ワンランクアップした取り組みが求められる。

特に、博物館としての機能のなかでも、記念館における調査・研究では、さらに広がりと深まりが出てくることが期待される。いや、期待というより、そのことが、新しいステージを与えられた記念館の使命となるものと考えられる。当館学芸員にとっては、大きなプレッシャーであると同時に磨き上げてきた手腕の見せ所であると思う。

龍馬の業績や行動を巡っては、実存する一次史料の制約もあって、「謎」とされる部分が少なくない。歴史は進化すると言われるが、今年から来年にかけて、大政奉還、そして明治維新150年を迎えて幕末期への関心が高まる中で、新たな史料が掘り起こされることが予想される。それらの調査や研究が行われることで、「謎」のベールに包まれていた新たな史実が明らかにされ、また、流布されてきた風説が正されていくこととなるだろう。

さて表題に掲げた「泰斗」は「泰山北斗」の略で、中国五岳の一つであり、世界遺産にも登録されている山東省の「東岳泰山」と「北斗七星」のことで、双方ともに誰からも仰ぎ見られることから、その道の大家として高く評価される存在や第一人者を指すこととされている。

一年間の休館期間を経て、2館体制で再スタートする記念館の次の四半世紀に向けた目標は、龍馬顕彰の分野における「泰斗」であると言うと、あまりにも大仰すぎるであろうか。

NEWS

●川と紡いできた暮らしを伝える資料館

四万十市立郷土資料館では「志国高知 幕末維新博」を契機に、2年間で耐震化や展示改修等の全面リニューアルを計画しています。

新しい郷土資料館では、川とともに生きてきた地域の文化を来館者に伝え、市の文化発信と観光の拠点となることを目指します。改修にあたっては、展示室として1～3階、展望室として6階を使い、その他のフロアでは収蔵設備を拡充します。

展示は大幅に刷新して、川と関わりながら発展してきた市の歴史や暮らしの知恵を紹介します。また、落ち着いて工芸品や絵画、古文書などの指定文化財を見ていただける環境を整え、小さな企画展の開催を継続できる資料館にしたいと考えています。

資料館休館中は、市立中央公民館をサテライト会場とし、「しまんと特別企画展」を開催中です。四万十市の歴史を6つの期間に分けて概観する「通史展示」と維新期に地域を支えた偉人たちを紹介する「幕末維新展示」の2つのテーマを用意しました。ぜひ足をお運びください。

（四万十市教育委員会生涯学習課　清水美保）

会員紹介

高知県文化生活スポーツ部文化振興課

高知県では、本県の文化のさらなる推進を図るために、平成29（２０１７）年3月に「高知県文化芸術振興ビジョン」を策定いたしました。

文化振興課では、ビジョンの基本目標であります「文化芸術の力で心豊かに暮らせる高知県」の実現に向け、文化芸術活動に取り組む方々の成果を発表する機会の拡充や地域で活動を牽引する人材の育成など、様々な施策に取り組んでいるところです。

また、文化広報誌『とさぶし』を発行し、高知らしい個性をもった地域文化の情報発信をしています。

更に、県民の文化芸術活動の拠点となります県立文化施設におきまして、展示公開や教育普及事業など、県内外の皆様に質の高い多様な芸術文化や歴史にふれる機会を提供しております。

現在開催中の「志国高知 幕末維新博」におきましては、県立文化施設のうち、高知城歴史博物館と坂本龍馬記念館（※休館中、平成30（２０１８）年春リニューアルオープン）がメイン会場、美術館、歴史民俗資料館、文学館が地域会場として、幕末維新期に関する多くの展覧会やイベントを開催しておりますので、是非ご来館ください。

（高知県文化生活スポーツ部文化振興課）

高知県公立大学法人永国寺図書館

永国寺図書館は、高知県立大学・高知工科大学・高知短期大学の共用施設として、平成29（２０１７）年4月に新館が開館しました。鉄筋コンクリート2階建て、収蔵能力約22万冊、座席数が閲覧席１２４席、学習室59席の図書館です。館内は、4層構造で、中央に吹き抜けのある明るく開放的な造りとなっています。

グループ学習室やディスカッションルームが新設され、アクティブラーニングができる施設となりました。各部屋にはラーニングテーブルとホワイトボードがあり、人数に合わせて自由に組み合わせることができます。個室のため話し声を気にせずディスカッション等にご利用いただけます。また、休憩のできる集いスペースもあり、図書館のなかで長時間過ごすことができるようになりました。

高知県立大学では授業が昼夜開講されていることから、永国寺図書館も平日は8時30分から21時まで開館しています。学生・教職員だけでなく、学外の方にも開放していますので、新しい機能を備えた図書館を多くの方に利用していただけたらと思います。

（高知県立大学総合情報センター永国寺図書館　渡邊桂子）

中土佐町立美術館

中土佐町立美術館は、土蔵造りの建物に加え多くの作品が町出身の実業家であった町田菊一氏からの寄贈により、平成元（１９８９）年に高知県初の絵画美術館として開館しました。収蔵作品には、日本洋画界の先駆者山本芳翠の滞欧作「洋美人」、黒田清輝の羽子板絵「舞妓図」など珍品ともいえる貴重な作品や、近代美術史に残る画家たちの秀作があり、年4期に分けた企画展示で順次紹介をしています。

また、平成26（２０１４）年には開館25周年を記念して中土佐町立美術館大賞展を開催しました。これは地方において創作活動に励む作家を支援し、地域の芸術文化の振興と発信を目的とした平面絵画の全国公募ビエンナーレ展です。「芸術は土佐の海浜より」というひそやかな志ではありますが、応募作品のレベルも高く高知の作家の一つの目標となりつつあります。

地方の小さな美術館ですが、様々な企画を通して所蔵する名品の紹介とともに、その延長線上にある現代の作家への支援も続けていきたいと考えています。

（中土佐町立美術館　市川雅彦）

高知県立文学館

高知県立文学館は高知城の東ふもとに位置し、建物は貴重な高知名物五色石を使用しています。

高知生まれの多くの作家と高知ゆかりの作家の作品を中心に、時には海外の作家も含めさまざまな文学の魅力を発信していこうと、平成9（１９９７）年に開館しました。本年は、20周年という記念の年になります。

古典から現在活躍している作家まで数多くご紹介している常設展は、ローテーション方式で作家を取り上げてご紹介しており、折々にテーマを変える常設展「企画コーナー」と併せ、いつ来て頂いても新鮮な内容となっています。さらに、全国的に屈指の収蔵資料数を誇る寺田寅彦と宮尾登美子の特別室もあります。

また「みんなあつまれ！こどものぶんがく室」では、高知ゆかりの作家の児童書、土佐民話の第一人者である市原麟一郎さんの著書紹介のほか、手づくりの民話の紙芝居などを実演しています。

今年は、20周年記念のイベントを11月3日の開館記念日を中心に行うほか、「志国高知 幕末維新博」に合わせて幕末維新から自由民権の作家をご紹介しています。土佐の人・心に触れる文学館に、ぜひお出でください。

（高知県立文学館　川島禎子）

海を渡った高知スピリット
高知の移民文化発信プロジェクト

特集 高知の移民文化発信プロジェクト

〝志を持って遠く故郷を離れ、新たな地に根付いた高知県人を紹介する〟を共通テーマとして、高知の移民文化を発信する展示事業を平成28（２０１６）年に開催しました。ここでは参加した10団体（※）のうち、４館からのお声を掲載します。

高知県立美術館
大原治雄写真展 ―ブラジルの光、家族の風景―
会期：４月９日（土）～６月12日（日）

いの町から17歳でブラジルに移民し、農業者として生涯を同地で暮らした大原治雄（１９０９～１９９９）は、アマチュア写真家としても活動しました。大原の写真などは、ブラジルのモレイラ・サーレス財団に収蔵されており、本展はそのコレクションから写真をはじめ、農具や日記など、貴重な資料もお貸しいただきました。

展示は、農場の労働者や日系移住地の様子を写した移民としての大原の視点からはじまり、子どもたちや愛妻を写した家族写真へと続く、大原一家の物語を辿る構成でした。この〝とある一家の物語〟は、多くの方の琴線に触れ、中には涙を流しているお客様もいらしたようです。

ＮＨＫ高知放送局を中心に「日曜美術館」や特別番組を制作いただいたこと、移民プロジェクトをはじめ、大原作品パネルと中南米の植物を展示した「ブラジルの植物展」（県立牧野植物園）など、県内施設との充実した連携を行えたことは、大原の日本初紹介となる本展の大きな後押しとなりました。

（高知県立美術館　影山千夏）

いの町紙の博物館
Tréfonds サウロ・ハルオ・オオハラ写真展を終えて
会期：６月１日（水）～19日（日）

サウロ氏は、昭和初期にいの町（旧吾川郡三瀬村）からブラジルに移住した農民写真家大原治雄氏の孫で、祖父から古いカメラをもらったことがきっかけとなり写真家としてブラジルで活躍しています。

高知県立美術館での「大原治雄写真展」に併せて初めて来高することとなった彼は、祖父の故郷「柳瀬石見」を訪ねました。そして、いの町に滞在した約２週間、かつて祖父が見たのと同じ仁淀川の流れや新緑の山々、祖先が住んだ痕跡とその墓所など、むさぼるように彼自身のルーツを撮り続けました。「あなた（おじいさん）が私をここに導いてくれた。（移住してから一度も帰国することのなかった）あなたが今、一緒にここに居るような気がする…」とつぶやきながら。

個展では、彼のブラジルでの作品「Tréfonds」と合わせ滞在中に撮り下ろした作品「再会の朝ぼらけ」を展示しました。撮影写真の一部は平成25（２０１３）年に開発されたいの町生まれの和紙「土佐白金紙」（プラチナプリント用印画紙）に、彼自身の手でプリントしました。あらゆる場面にも畏敬の念を込めた彼の作品は、きっと見る者に深い感銘を与えたことでしょう。

そして、この展示会を機にブラジルといの町の友好の輪がますます広がることを願うとともに、土佐白金紙を通じ土佐和紙の持つ可能性を広く発信できることを期待しています。（いの町紙の博物館　別役理佳）

佐川町立青山文庫
移民と移住の歴史
会期：６月11日（土）～８月28日（日）

佐川町が「ブラジル移民の父」と称される水野龍（りょう）の出身地であることから今回の「高知の移民文化発信プロジェクト」に参加し、小展示「移民と移住の歴史」を開催しました。

海外へ移り住む事を「移民」、国内に移り住む事を「移住」と捉えて、ハワイ・北米移民からブラジル移民、満洲移民の歴史を紹介し、併せて北海道移住、外地（当時日本の一部とされていた台湾・南樺太（からふと）・関東州・朝鮮半島・南洋群島）移住の歴史を、ともに戦前までを対象として紹介しました。

企画時から「移民」と「移住」という言葉にこだわった展示でしたが、結果的には同じ土俵で使用される言葉ではなかったようです。また、日本の移民史の概説自体がめずらしかったというのも意外でした。

幕末維新期を対象とした展示が多い当館としては、今回のような取り組みがなければ単館で開催することはなかった展示でしたので、良い機会に恵まれ、さらに、小冊子として結果を残すことができ、有意義な取り組みでした。

（佐川町立青山文庫　藤田有紀）

高知市立自由民権記念館
『在伯同胞活動実況大写真帖』―竹下増次郎、ブラジル日本移民を写す
会期：４月28日（木）～10月２日（日）

当館では「ブラジル移民百年展」などの実績もあったのでプロジェクトに参加しました。幸いだったのは、竹下増次郎のご子息がご健在で全面的協力のもと、ほとんどの資料を出品いただいたうえ、興味深い話を沢山聴くことができたことでしょう。

展示では、写真帖原本、関連資料に加え写真帖から高知県出身者や移民史上重要な写真をパネル化しました。

実は、竹下増次郎とこの写真帖は移民史ではすでに有名で、慶応や立教が調査や撮影に来ているのですが、高知県の人々にはあまり知られてはいません。今回、そのことを少しは解消できたのではないでしょうか。

さらに、竹下の出身地である須崎の「まちかどギャラリー」で展示できたことも大きな成果です。展示は平成29（２０１７）年１月７日から29日まで、タイトルは「ふたつの郷里　須崎からブラジルへ　―竹下増次郎とその家族による写真より―」でした。

「体が悪く、高知の展示会はいけなかったが、須崎でやってくれてありがたい」という大変うれしい声もあったと聞きました。

そして、この展示で作成した全てのパネルは、竹下家に納め保存していただけることになりました。（高知市立自由民権記念館　筒井秀一）

※ほかの参加団体…高知県立坂本龍馬記念館、高知県立図書館、本山町立大原富枝文学館、土佐市ドラゴン広場（土佐市地域おこし協力隊）、安田町まちなみ交流館「和」、浦臼町郷土史料館（北海道）

「志国高知　幕末維新博」とミュージアム

大政奉還並びに明治維新150年を機として、高知県主催で開催されている「志国高知　幕末維新博」は、高知県全体を会場に見立てた「博覧会」である。

近年、「幡多博」・「東部博」・「奥四万十博」などが、県内各地域を会場として開催されてきた。また、かつてはNHK大河ドラマ「功名が辻」や「龍馬伝」の放送に際し、高知市域を中心として、歴史博が企画されたこともあった。これら従前の地域博は、いずれも観光と産業を中心として展開され、文化施設は控え目に協力するという対応であった。

今回の「志国高知　幕末維新博」は、その名のとおり近世から近代への移行期を中心にさまざまなテーマを設定し、歴史を基軸として、県内各地で自然、食、遊び、学びといった様々な要素を結びつけながら展開する、広がりと厚みを持った「博覧会」を実現しようとするものである。

それはまた、メイン会場となる高知城歴史博物館と坂本龍馬記念館をはじめ、県内22の文化施設が連合して、県域全体で各地の歴史を改めて振り返り、更に進んで地元に眠る新しい歴史を発掘しようとする、壮大な実験という側面も有している。

観光や産業が求める即効性や数的成果といった極めて現実的世界に対して、文化が常に重視する恒久的とか普遍的といった言葉は、しばしば相反する傾向がある。

必ずしも目的や方法が一致するとは限らない二つの分野が、幕末・維新をキーワードとして、新しい関係のあり方を模索する。これは、決して容易く実現できることではない。しかし、高知県では、今までも諸分野の近づきが図られてきた経緯がある。

この機に、各分野・各地域がそれぞれを知り、異なる点、協働できる点を認め合うことが、最大の成果となるのではないか。

私たち文化に関わる者にとっても、積極的に社会と対話し、異なる分野とも連携していくことで、新しい一歩を踏み出すきっかけとなることを期待したいのである。

（（公財）土佐山内記念財団
高知県立高知城歴史博物館
渡部　淳）

コラム　志国高知　幕末維新博

私だけではない？

下世話な話だが、「志国高知　幕末維新博」地域会場への支援は甚大で、一瞬だが確実に頬が緩んだのも事実。

平素、博物館改修に対する補助制度がほぼ皆無の中で、いわば新建設時の「一発勝負」以降、ずっと善処と信じる日々を重ねつつ、「その時に自分がいたらなあ」と思ったり、新館建設の話題を眩しく感じたりと、不届きな夢想を続けていたわけだが、たぶんこれは私一人ではあるまい。

しかし、今回の話はなにぶんにも時間がない。そして観光に軸足を置いたことで、周遊による飛躍的な集客とその継続性が必須になっていて、一縷の望みは「本物の歴史を見せる」という旗印。すがるように手を挙げたが、まあ大変。

これまた私一人ではないと思うが、観光的な考え方や関係者とは一定以上の距離感があったのに、それが突如一体になって、しかも牽引役まで担うという現実。そして当方としては既存の館運営の問題点を大幅に改善したいので、この狭間をどう繋げて連動させるか。どこか私の真価が問われる気もしてプレッシャーのかかること。

第1幕、オープンしてすでに青息吐息だが、ここまで当市では施設内の展示ケース増設、収蔵庫改修やスポーツ自転車レンタル、周遊クーポンの発行などを整えて、テーマ「宿毛の21人」を支え合っている。ハード整備は「勢い余って残念」にならないように、「以前よりは良くする」を心掛けたがどうだっただろう。新館を羨んでいた浅はかさに赤面する。

今後は、全国資料調査や企画展の開催、書籍の編集に力点が移るなかで、懸案であった明治22（1889）年建設「林邸」の再生活用事業に最大限注力する。「本物の歴史を観光に」、まさに今回の象徴となるこの事業、ご注目いただくと同時に、合わせて忌憚ないご助言を頂戴したい。

（宿毛市立宿毛歴史館　矢木伸欣）

四国ミュージアム研究会

高知城の南に平成29（2017）年3月4日オープンした高知城歴史博物館を会場に、第13回四国ミュージアム研究会がこうちミュージアムネットワークの共催で開催されました。四国ミュージアム研究会は平成17（2005）年に発足して10年を過ぎましたが、もともとは四国地区歴史系学芸員・アーキビスト交流集会（平成8（1996）年発足）が発展改称したものですので、それからいうと、20年を迎えたことになります。元々の名称からもわかるように、四国内の歴史系学芸員と文書館の専門職員が集まって、博物館の様々な問題について話し合い、交流を深めることを目的に始まり、四国の各県が持ち回りで年1回開催しています。

毎回テーマを決めて、それに関する報告を四県から発表するスタイルで、今回は「ミュージアムと観光」について、まず会場の高知城歴史博物館館長の渡部淳さんより「高知城歴史博物館の5つの使命－新しい博物館の試み－」についてご報告いただきました。その後、室戸ジオパーク推進協議会、坂の上の雲ミュージアム、高松市美術館、鳴門市ドイツ館の計4施設から報告があり、質疑応答がなされました。2日目は高知城歴史博物館の現地見学会で、展示会場をはじめ、バックヤードの見学をさせていただきました。

ミュージアムにとって「観光」は切っても切れない関係にありますが、双方のねらいや方針などに多々違いがあり、なかなかうまく連携できないのが現状です。各県の報告には、それをいかに解消して活かしていくか、参考になることやヒントがあったように思います。来年は愛媛県での開催です。興味のある方はぜひご参加ください。

（安芸市立歴史民俗資料館　門田由紀）

平成28（2016）年度活動報告

28年度は、これまでの3部会を「企画調整部会」と「研修教育普及部会」に再編し、「地域資料調査部会」を新たな部会として組織した。ネットワークの「あり方検討委員会」は幹事会へと移行させた。

【企画調整部会】
- 総会　平成28年6月3日
- 幹事会　平成28年5月24日・10月6日・平成29年1月5日

【研修教育普及部会】
- 情報交換会（6月3日）

①「豊永郷民俗資料館オープン」
釣井龍秀（豊永郷民俗資料館）
②「移民プロジェクト・大原治雄写真展・日曜美術館」
影山千夏（高知県立美術館）
③「特別天然記念物オオサンショウウオ～高知の近況～」
渡部孝（わんぱーくこうちアニマルランド）
④「高知城歴史博物館の準備状況」
大保和巳（高知県立高知城歴史博物館）

- 「こうちミュージアムネットワーク専門的職員名簿2016」作成
- ホームページの更新
- 高知市広報『あかるいまち』コラム「歴史万華鏡」リレー連載

【地域資料調査部会】
- 第3回全国史料ネット研究交流集会への参加及び活動報告

平成28年12月17日・18日
会場：愛媛大学
報告：「こうちミュージアムネットワークの活動―地域資料保存に向けた取り組み―」
（報告者：田井東浩平）

【会報誌編集担当者会】
- 会報誌15号編集

【新入会員】（平成28年5月～平成29年4月）
- キラメッセ室戸鯨館

時の話題　アンパンマンミュージアム20周年事業

平成28（2016）年7月21日香美市立やなせたかし記念館アンパンマンミュージアムは開館20周年を迎えました。それに先駆けて年明けの3か月間臨時休館し、老朽化した空調設備の改修工事を実施、記念日当日は式典他、特別展や各種イベントも実施しました。

これまでの周年事業は、やなせたかし名誉館長のアイデアや、資金的な援助も頂きながら実施していましたが、20周年は同氏が亡くなって初めての周年事業であり、合併によって市の中における当館の位置づけも変化する中で迎えることとなりました。よって予算面では不安もありましたが、結果的には建築・設備改修に関しては市の財源から、特別展や展示物リニューアル等に関しては財団の財源から実施し、当日は予想以上の多くのお客様が来館され、盛大に開館記念日を祝うことができました。

今後はより一層周年事業の財源も厳しくなっていくと思われます。25周年30周年に向けては、〝存続させるに値する〟館となるべく、日頃から当館の存在価値を高め、伝えていく努力が必要であると感じました。

（(公財)やなせたかし記念アンパンマンミュージアム振興財団　仙波美由記）

展覧会レポート

「犬、猫、作家。～作家とペットの素敵な関係～」

平成29（2017）年1月21日（土）～3月20日（月・祝）

会場風景（高知県立文学館）

今は空前のペットブームだと言われていますが、そこに的を当てたタイムリーな企画、「犬、猫、作家。」展を見てきました。高知県立文学館は、元郷土文化会館として県展なども開催されていた関係からなじみの場所でしたが、文学館になってからは少し足が遠のいていて残念に思っていたので、よい機会になりました。

さて、展示の内容ですが、文学者の中には多くの愛犬家、愛猫家がいますが、それが作品にもにじみ出ている様子が紹介されていてほほえましく、その作家をより身近に感じることができました。犬派の大原富枝さんや安岡章太郎さんに、猫派の大佛次郎さん、寺田寅彦さんなど、犬猫が本当に家族の一員であり心の支えになっていて作家にとってかけがえのない存在だということが伝わってきます。他にも長い歴史の中での人間と犬猫のかかわりや、近年の動物愛護運動の取り組みなども含め、幅広い視野で展示が構成されています。さらに、展示の最後に可愛いだけで終わらない文学館ならではの展示として、平成26（2014）年に亡くなられた作家坂東眞砂子さんのエッセイが紹介されていました。それは「いのち」そのものに関する問いかけで発表当時から多くの反響があり注目され批判にもさらされたものですが、根源的な問題を投げかけていて共感をおぼえました。誰もが関心を持ちやすい犬猫を入り口にして文学の世界にいざない、さらに深い内容にまで迫ってくる展示内容になっていました。関連企画も映画上映会から素焼きニャンぬりえ、ペットのキーホルダー作り、ティーチャーズ・デーなど盛りだくさんで、来館者を楽しませる工夫が随所にこらされています。なんとなく敷居が高いように思われがちな文学館に気軽に立ち寄ってもらえるような工夫が見える内容で、会場内の読書コーナーでゆったりとくつろいで犬猫本を読んでいる来館者を何人かお見かけし、うらやましく思いました。

展覧会を見終わったあと、我が家の愛猫に会いたくなるような展示で大いに楽しむことができ、また機会をつくってぜひ訪れてみたいと思っています。

（香美市立美術館　都築房子）

図書の窓

ひとが優しい博物館　ユニバーサル・ミュージアムの新展開

平成28（2016）年4月、障害者差別解消法が施行。また、同年7月には高知市でも手話言語条例が施行された。そんな中、同年8月に本書は発行された。前著『さわって楽しむ博物館　ユニバーサル・ミュージアムの可能性』に続く第2弾として、ユニバーサル・ミュージアムの第一人者、国立民族学博物館の広瀬浩二郎さんが編著されている。

本書は、広瀬さんをはじめ視聴覚障害の当事者の方や、学芸員など実際に博物館施設においてユニバーサル・ミュージアムを実践している方々が書かれているため、紹介されている事例は有意義かつ現実的で、すぐに真似することができる。

とはいえ、「ユニバーサル・ミュージアム＝誰もが楽しめる博物館」というと、少しハードルが高いように思えるのも事実である。実際、多くの博物館は「見学・観覧」という言葉に象徴されるように、「視覚」に大きく頼っており、特に視覚障害者にとっては縁遠い存在になってしまっているかもしれない。

しかし、本書を読んでいると、「少しずつ、できることから試してみよう」という気になってくる。県内の博物館施設の皆さんも、この機会に一度、それぞれの館をユニバーサル・ミュージアムの視点で見つめ直してみてはどうだろう。

例えば、データが無く博物館資料としては価値の低いものでも、その形状や質感、重さなどをさわって確かめてもらう資料としては、さわれない資料よりも価値が高いと言える。そして、さわれる展示は視覚障害者だけでなく、誰もが楽しめる展示となる。また資料にさわるときの心構えや扱い方を伝えることは、博物館への理解にもつながる。

受付に筆談用のメモ用紙はありますか？ショップの棚は点字ブロックにかかっていませんか？点字の解説がはがれていませんか？展示ケースの間を車いすで通れますか？資料名だけでも英語表記をつけていますか？チラシをつくるときカラーユニバーサルデザインを考えていますか？収蔵庫にさわれる資料が眠っていませんか？

少しずつ、できることから。

（高知市民図書館新図書館建設室（高知みらい科学館）岡田直樹）

『ひとが優しい博物館　ユニバーサル・ミュージアムの新展開』
広瀬浩二郎　編著　平成28(2016)年
青弓社刊　2,000円＋税

●こうちミュージアムネットワーク　会員一覧●

（団体会員のみ）

名　称	〒	住　所	電　話	FAX	HP	休 ※は年末年始等特別休館日あり
安芸市立書道美術館	784-0042	安芸市土居 953- イ	0887-34-1613	0887-34-1613	×	月（祝日開館）※
安芸市立歴史民俗資料館	784-0042	安芸市土居 953- イ	0887-34-3706	0887-34-3706	○	月（祝日開館）※
いの町紙の博物館	781-2103	吾川郡いの町幸町110-1	088-893-0886	088-893-0887	○	月（祝日の場合は翌日）※
いの町立吾北中央公民館	781-2401	吾川郡いの町上八川甲2010	088-867-2133	088-867-2773	×	日祝 ※
絵金蔵	781-5310	香南市赤岡町 538	0887-57-7117	0887-57-7117	○	月（祝日の場合は翌日）※
大方あかつき館（上林暁文学館）	789-1931	幡多郡黒潮町入野 6931-3	0880-43-2110	0880-43-0222	○	木祝・月末金 ※
越知町立横倉山自然の森博物館	781-1303	高岡郡越知町越知丙 737-12	0889-26-1060	0889-26-0620	○	月（祝日の場合は翌日）※
海洋堂かっぱ館	786-0322	高岡郡四万十町打井川 685-1	0880-29-3678	0880-29-3679	○	火（祝日の場合は翌日）※
海洋堂ホビー館四万十	786-0322	高岡郡四万十町打井川 1458-1	0880-29-3355	0880-29-3356	○	火（祝日の場合は翌日）※
香美市立美術館	782-0041	香美市土佐山田町 262-1 プラザ八王子 2F	0887-53-5110	0887-53-5498	○	月（祝日の場合は翌日）※
香美市立やなせたかし記念館	781-4212	香美市香北町美良布 1224-2	0887-59-2300	0887-57-1410	○	火（祝日の場合は翌日）※
香美市立吉井勇記念館	781-4247	香美市香北町猪野々 514	0887-58-2220	0887-57-5995	○	火（祝日の場合は翌日）※
キラメッセ室戸鯨館	781-6833	室戸市吉良川丙 890-11	0887-25-3377	0887-24-5000	○	月（祝日の場合は翌日）
高知県文化財団	781-8123	高知市高須 353-2 高知県立美術館内	088-866-8013	088-866-8008	○	土日祝 ※
高知県文化振興課	780-8570	高知市丸ノ内 1-2-20	088-823-9790	088-823-9296	○	土日祝 ※
高知県立足摺海洋館	787-0450	土佐清水市三崎字今芝 4032	0880-85-0635	0880-85-0650	○	12 月第 3 木
高知県立高知城歴史博物館	780-0842	高知市追手筋 2-7-5	088-871-1600	088-871-1619	○	無休
高知県立坂本龍馬記念館	781-0262	高知市浦戸城山 830	088-841-0001	088-841-0015	○	2017年4月から1年間閉館予定
高知県立大学総合情報センター図書館	780-8515	高知市永国寺町 2-22	088-821-7129	088-821-7130	○	日祝・第 1 水 ※
高知県立図書館	780-0850	高知市丸ノ内 1-1-10	088-872-6307	088-872-6479	○	月祝・月末金 ※
高知県立のいち動物公園	781-5233	香南市野市町大谷 738	0887-56-3500	0887-56-3723	○	月（祝日の場合は翌日）※
高知県立美術館	781-8123	高知市高須 353-2	088-866-8000	088-866-8008	○	※
高知県立文学館	780-0850	高知市丸ノ内 1-1-20	088-822-0231	088-871-7857	○	※
高知県立埋蔵文化財センター	783-0006	南国市篠原 1437-1	088-864-0671	088-864-1423	○	土日祝（展示期間中は開館）※
高知県立牧野植物園	781-8125	高知市五台山 4200-6	088-882-2601	088-882-8635	○	※
高知県立歴史民俗資料館	783-0044	南国市岡豊町八幡 1099-1	088-862-2211	088-862-2110	○	※
高知市生涯学習課	780-8529	高知市九反田 2-1 かるぽーと 8F	088-821-9215	088-821-9217	○	日月祝 ※
高知市春野郷土資料館	781-0304	高知市春野町西分 340	088-894-2805	088-894-2812	○	月祝・20 日（詳細は館 HP 参照）※
高知市民権・文化財課	780-8010	高知市桟橋通 4 丁目 14-3	088-832-7277	088-831-3378	○	月（祝日の場合は翌日）※
高知城	780-0850	高知市丸ノ内 1 丁目 2-1	088-824-5701	088-824-9931	○	※
高知市立市民図書館	780-0842	高知市追手筋 2 丁目 1-7	088-823-9451	088-823-9352	○	月祝・20 日 ※
高知市立自由民権記念館	780-8010	高知市桟橋通 4 丁目 14-3	088-831-3336	088-831-3306	○	月（祝日の場合は翌日）※
高知市立龍馬の生まれたまち記念館	780-0901	高知市上町 2 丁目 6-33	088-820-1115	088-822-1835	○	無休
香南市文化財センター	781-5453	香南市香我美町山北 1553-1	0887-54-2296	0887-54-2433	○	土日祝（第 4 日曜は開館）※
古渓城	786-0002	高岡郡四万十町見付 665	0880-22-1654		×	事前申込
子どものための民具体験館	780-0861	高知市升形 5-29	088-822-1764	088-822-1843	×	事前申込
金剛頂寺霊宝館	781-7108	室戸市元乙 523	0887-23-0026	0887-23-0726	×	事前申込
佐川町立佐川地質館	789-1201	高岡郡佐川町甲 360	0889-22-5500	0889-22-5511	○	月（祝日の場合は翌日）※
佐川町立青山文庫	789-1201	高岡郡佐川町甲 1453-1	0889-22-0348	0889-20-9009	○	月（祝日の場合は翌日）※
四国自然史科学研究センター	785-0023	須崎市下分乙 470-1 新荘公民館内	0889-40-0840	0889-40-0840	○	土日祝 ※
四万十市立郷土資料館	787-0000	四万十市中村土居山 2356 為松公園内	0880-35-4096	0880-35-4096	○	現在休館中
四万十町立美術館	786-0004	高岡郡四万十町茂串町 9-20	0880-22-5000	0880-22-5001	×	月祝 ※
定福寺宝物館	789-0167	長岡郡大豊町粟生 158	0887-74-0301	0887-74-0302	○	※
ジョン万次郎資料館	787-0337	土佐清水市養老 303	0880-82-3155	0880-82-3156	○	無休
宿毛市立坂本図書館	788-0001	宿毛市中央 2-7-14	0880-63-2654	0880-63-0155	○	月祝 ※
宿毛市立宿毛歴史館	788-0001	宿毛市中央 2-7-14	0880-63-5496	0880-63-1319	○	月（祝日の場合は翌日）※
須崎市立図書館	785-0013	須崎市西古市町 6-15	0889-42-2141	0889-42-2141	×	月祝 ※
創造広場アクトランド	781-5233	香南市野市町大谷 928-1	0887-56-1501	0887-56-1506	○	無休
竹林寺宝物館	781-8125	高知市五台山 3577	088-882-3085	088-884-9893	○	無休
津野町立図書館かわうそ館	785-0202	高岡郡津野町姫野々 433-2	0889-55-3001	0889-55-3555	○	火祝・第 4 金 ※
津野町立図書館虎太郎館	785-0501	高岡郡津野町力石 2870	0889-62-3555	0889-62-3555	○	火祝・第 4 金 ※
特定非営利活動法人 黒潮実感センター	788-0343	幡多郡大月町柏島 625	0880-62-8022	0880-62-8023	○	土日（10～6 月）・月（7～9 月）
特定非営利活動法人 地域文化資源ネットワーク	781-5102	高知市大津甲 562-1-303	080-6721-3074		○	
土佐市立市民図書館	781-1101	土佐市高岡町甲 2177	088-852-3333	088-852-3484	○	月祝・月末金 ※
土佐豊永万葉植物園	789-0167	長岡郡大豊町粟生 158	0887-74-0301	0887-74-0302	○	※
豊永郷民俗資料館	789-0167	長岡郡大豊町粟生 158	0887-74-0305	0887-74-0302	×	※
中岡慎太郎館	781-6449	安芸郡北川村柏木 140	0887-38-8600	0887-38-8601	○	火（祝日の場合は翌日）※
中土佐町立美術館	789-1301	高岡郡中土佐町久礼 6584-1	0889-52-4444	0889-52-2343	○	月（祝日の場合は翌日）
中村時計博物館	783-0011	南国市後免町 1 丁目 5-26	088-864-2458	088-864-5249	○	無休（日祝は要確認）
日本ウミガメ協議会 室戸研究基地	781-7101	室戸市室戸岬町 701	0887-22-1685	0887-22-1685	○	不定休
認定特定非営利活動法人 高知こどもの図書館	780-0844	高知市永国寺町 6-16	088-820-8250	088-820-8251	○	火木 ※
平和資料館草の家	780-0861	高知市升形 9-11	088-875-1275	088-821-0586	○	水日祝
民間非営利団体 高知文化財研究所	782-0016	香美市土佐山田町山田 1645	0887-52-0736	0887-52-0736	×	
室戸ジオパーク推進協議会	781-7101	室戸市室戸岬町 1810-2 室戸世界ジオパークセンター内	0887-22-5161	0887-23-1618	○	無休
横山隆一記念まんが館	780-8529	高知市九反田 2-1 かるぽーと内	088-883-5029	088-883-5049	○	月（祝日開館）※
龍河洞博物館	782-0005	香美市土佐山田町逆川 1434	0887-53-4376	0887-53-2145	○	無休
藁工ミュージアム	780-0074	高知市南金田 28 アートゾーン藁工倉庫	088-879-6800	088-879-6800	○	火（祝日の場合は翌日）※
わんぱーくこうちアニマルランド	780-8010	高知市桟橋通 6 丁目 9-1	088-832-0189	088-834-0929	○	水（祝日の場合は翌日）※

こうちミュージアムネットワーク通信 第15号　平成29年5月●日発行

■編集　こうちミュージアムネットワーク会報誌編集担当者会
（高知県立坂本龍馬記念館、高知県立美術館、高知県立文学館、高知市立市民図書館、四国自然史科学研究センター、横山隆一記念まんが館）

■事務局　高知県立高知城歴史博物館　■電話　088-871-1600　■http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~museum/network/konet_home.html